

高崎市文化財調査報告書第 274 集

# 八幡・六枚遺跡 2

－住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2010

高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第 274 集

# 八幡・六枚遺跡 2

－住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2010

高崎市教育委員会

## 例 言

- ・本書は、住宅建設に伴い事前調査された八幡・六枚遺跡の第2次発掘調査（高崎市遺跡番号466）の報告書である。
- ・本遺跡は、群馬県高崎市八幡町字六枚910番地1ほかに所在する。
- ・本調査及び整理作業は高崎市教育委員会が、委託契約を締結した株式会社測研たかさき事務所の協力を得て実施した。
- ・発掘調査から整理作業を経て本書刊行に至る経費は、事業主である金井茂氏に負担して頂いた。
- ・発掘調査の体制は下記のとおりである。

高崎市教育委員会 田口一郎、須田奈保子、滝沢匡

株式会社測研たかさき事務所 高林真人、山崎悟

- ・発掘調査期間は平成22年4月1日～5月19日、整理作業期間は平成22年5月20日～11月30日である。
- ・本書の執筆は、第1章は田口、第2～第4章は高林が行い、編集は高林が行なった。
- ・出上した遺物及び各種原因・写真などの記録類は高崎市教育委員会が保管している。
- ・本遺跡の発掘調査および報告書刊行にあたって、下記の方々・機関から御指導・ご協力を賜った。ここに記して御礼申し上げます。（五十音順・敬称略）

金井 茂 山藤哲章 山下工業株式会社

## 凡 例

- ・遺構番号は、原則として発掘調査時に付したものを使用している。
- ・遺構欄中に使用した座標値は世界測地系によるものであり、方位記号は座標北を示している。
- ・各遺構平面図に記した座標値は、X座標・Y座標ともに下3桁を表記している。
- ・セクション・エレベーションの各図に付した数値（L=）は、海拔を表す。
- ・土層注記及び遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖（1998年版）』を使用した。
- ・遺構には次の略号を使用した。

S I = 竪穴住居跡 S K = 土坑 P = ビット（小穴） p = 住居跡内ビット

- ・本文中の数値で[ ]の付くものは、残存値を表す。
- ・遺構の実測図は、調査区全体図を1/200、基本土層断面図を1/60、竪穴住居跡、土坑、ビットの平・断面図を1/80、住居跡カマドの平断面図を1/40で掲載した。
- ・遺物の実測図は1/4を原則として掲載した。石製模造品・土製土器は1/2、刻書土器の拓本は3/4で掲載し、縮尺を表示している。
- ・反転した実測図は中心線付近の外形線に間を空け、L線部を直線で表現した。口縁欠損部は残存部から間を空け直線で表現し、復元した箇所は残存部から間を空けて表現した。
- ・遺物実測図の割れ口は、輪積み・積み上げ部分で割れていると判断したものは実線で表している。
- ・遺物写真は、土器をほぼ1/4、刻書土器詳細をほぼ3/4、土製品・石製品をほぼ1/2となるように掲載した。
- ・出上した遺物の注記は、遺跡番号（466）・遺構名・出土層位などを記入した。
- ・本報告書では、下記の降下火山灰の略号を使用した。

◎As - YP：浅間一板鼻黄色軽石 ◎As - B：浅間B軽石

- ・本報告書で使用した地図は下記のとおりである。

◎国土地理院 地形図「高崎」「富岡」1/25,000 ◎高崎市都市計画基本図 1/2,500

- ・遺物実測図に使用したトーンは以下のとおりである。

黒色処理  赤彩  煤・炭化物  軸葉範囲・灰輪陶器断面  須葉器断面 

## 目次

例言

凡例

目次

第1章	調査に至る経緯	1
第2章	遺跡の位置と環境	1
第1節	遺跡の位置と周辺の地形	1
第2節	周辺の遺跡	1
第3章	調査方法と調査の経過	3
第4章	検出された遺構と遺物	4
第1節	遺構の分布と基本土層	4
第2節	竪穴住居跡	4
第3節	その他の遺構	18
第4節	まとめ	18

## 挿図目次

第1図	周辺遺跡図(1/25,000)・調査区位置図(1/2,500)	2
第2図	調査区全体図・基本土層	5
第3図	1号・2号・12号住居跡平・断面図	6
第4図	3号～5号住居跡平・断面図	7
第5図	6号住居跡平・断面図	8
第6図	7号～9号・13号住居跡平・断面図	9
第7図	10号・11号住居跡平・断面図	10
第8図	土坑・ピット平断面図	12
第9図	1号・2号住居跡出土遺物	13
第10図	3号・4号住居跡出土遺物	14
第11図	5号～9号、7・8号住居跡出土遺物	15
第12図	11号・12号住居跡、土坑、遺構外出土遺物	16
遺構観察表		18
遺物観察表		19

写真図版

## 第1章 調査に至る経緯

平成22年1月、金井 茂氏（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に宅地造成工事予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、照会地が周知の埋蔵文化財包蔵地であり、周辺の八幡遺跡や六枚遺跡等で弥生～平安時代の集落跡が調査されており、当該地にも及ぶ可能性が高いことから、試掘調査による確認を実施し工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年2月10日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年2月18日と24日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳～平安時代の遺構を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、道路建設部分に関して記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、株式会社測研に委託して実施することとなり、平成22年4月1日付けで高崎市長・事業者・測研の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成22年4月1日付けで事業者と株式会社測研の二者で発掘調査委託契約が締結された。

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置と周辺の地形

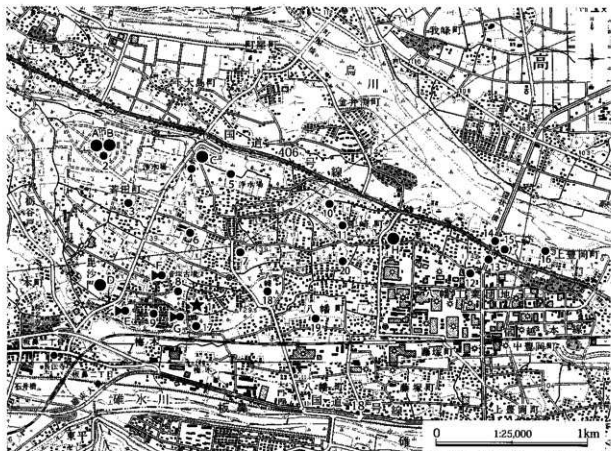
八幡・六枚遺跡は、高崎市八幡町に所在する弥生時代から平安時代にかけての複合遺跡である。本遺跡の所在する高崎市は群馬県南西部に位置し、北東側に緩やかに弧を描く北西～南東方向に細長い形をしている。八幡町は高崎市南部の西側に位置しており、南西側は安中市と接する。本遺跡は高崎市街地から西北西へ約6.0kmに位置し、本遺跡の約500m西には県道前橋安中富岡線が北東～南西方向に走り丘陵を横断する。約1.2km北には国道406号線が西北西～南東方向に、約500m南には国道18号線が東西方向に走り、約4.0km東で合流する。約200m南の崖下にはJR信越本線が東西方向に走り、東南東へ約1.2kmの所に群馬八幡駅がある。

本遺跡は高崎市倉御町鼻曲山を源とする烏川と、長野県との境に位置する碓氷峠に源を発する碓氷川とに挟まれた西から東へ延びる八幡台地に立地している。台地の北側・南側はそれぞれ烏川・碓氷川によって谷底平野が形成され、台地の北側は比高差30m前後の急斜面を成し、南側は約1.3kmにわたり比高差20m前後の崖線が見られる。東側は剣崎町付近から谷底平野との比高差がほぼ無くなり、東へ緩やかに傾斜しながら烏川・碓氷川の合流地点へと至る。台地上面は台地と同じ東西方向に2本の小谷があり3つに分かれる。地形は概ね平坦で、西から東に向かって緩やかに傾斜している。今回の発掘調査地点は台地の南縁付近に位置しており、本遺跡から南へ約150mの所に台地縁の崖線が見られる。発掘調査地点の現況は資材置場撤去後の更地となっており、標高は135m前後で東に向かって緩やかに傾斜している。

### 第2節 周辺の遺跡

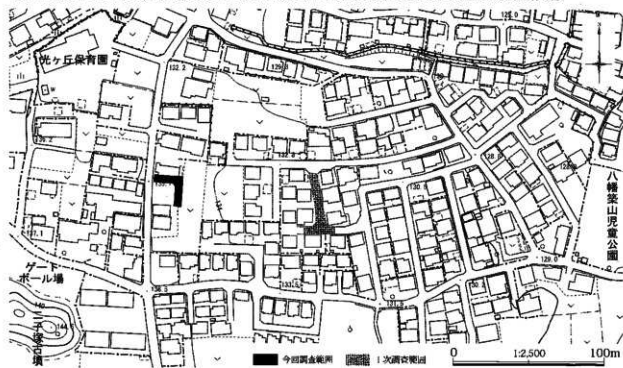
八幡・六枚遺跡は、烏川と碓氷川とに挟まれた八幡台地上に立地しており、この台地は高崎市でも有数の遺跡密集地域となっている。本遺跡の立地する八幡台地の遺跡について概観する。

旧石器時代 八幡台地からは旧石器時代の遺物・遺構は確認されていない。縄文時代 該期の遺構が確認されたのは台地北部のみである。若田原遺跡（第1図2、以下第1図省略）、大島原遺跡（4）、剣崎稲荷塚遺跡（10）、剣崎稲荷塚遺跡2次調査（11）で竪穴住居跡が確認されている。北部の剣崎長瀬西遺跡（5）、中央部の八幡中原遺跡（6）、南部の八幡遺跡（9）では土器片・石器などが出土している。弥生時代 前期の遺構は確認されていない。中期の遺構は中葉の再葬墓と考えられる土坑が台地北部の剣崎長瀬西遺跡で確認されている。後期になってから台地の南北縁部で集落が営まれるようになる。台地北側平坦部では引間遺跡（12～16）、北部では剣崎長瀬西遺跡、剣崎稲荷塚遺跡2次調査で竪穴住居跡が確認された。南部では八幡遺跡と、近接するノノ市遺跡（8）、



1:八幡・六枚遺跡 2:若田原遺跡 3:若田屋敷(竪1・Ⅱ)遺跡 4:大島原遺跡 5:剣崎長巻西遺跡 6:八幡中原遺跡 7:七五三引遺跡 8:三ノ市遺跡 9:八幡遺跡(八幡遺跡古墳部) 10:剣崎稲作塚遺跡 11:剣崎稻荷塚遺跡(2次調査) 12:引間遺跡Ⅲ 13:引間遺跡Ⅱ 14:引間遺跡 15:引間V遺跡 16:上島引間Ⅳ遺跡 17:八幡宮 18:八幡宮 19:木崎歴史館 20:剣崎小路城

A:若田権ノ木塚古墳 B:若田大塚古墳 C:剣崎長巻西古墳 D:瀧の塚古墳 E:平塚古墳 F:観音塚古墳 G:二子塚古墳 H:剣崎天神山古墳



第1図 遺跡位置図、八幡・六枚遺跡調査区位置図

本遺跡(1)1次調査で竪穴住居跡が確認され、集落が広がっていたと見られる。古墳時代 台地北側平坦部では引間遺跡で集落が確認され、その後終末期に群集墳が造られた後は竪穴住居跡はあまり見られなくなった。北部では剣崎長瀬西遺跡、剣崎稲荷塚遺跡2次調査で集落が営まれ、その周囲に剣崎長瀬西古墳(C)、中期・終末期の群集墳、剣崎天神山古墳(H)、若田大塚古墳(B)、若田楯ノ木塚古墳(A)、後期～終末期の群集墳が造られている。中央部では、中期後半～終末期にかけて集落の主体と考えられる八幡中原遺跡と、その周囲に七五三引遺跡(7)、若田屋敷裏Ⅰ・Ⅱ遺跡(3)がある。南部では、籠的塚古墳(D)、平塚古墳(E)、観音塚古墳(F)、二子塚古墳(G)があり、平塚古墳と二子塚古墳の間には集落と群集墳が確認された八幡遺跡がある。剣崎長瀬西遺跡、八幡中原遺跡、七五三引遺跡、八幡遺跡からは韓式系土器が出土しており、遺跡間の関連が注目される。奈良・平安時代 台地北側平坦部では引間遺跡の墓域化しなかった場所に集落が形成されている。北部では剣崎稲荷塚遺跡、剣崎稲荷塚遺跡2次調査で竪穴住居跡が確認されている。中央部では八幡中原遺跡、若田屋敷裏Ⅰ・Ⅱ遺跡で竪穴住居跡のほか、大型の竪穴住居跡・掘立柱建物跡が確認されている。これらの大型遺構は東山道と関連のあった可能性が高い。南部では、八幡遺跡で群集墳を避けるように竪穴住居跡が点在している。中世以降 台地の麓に八幡館(17)、八幡宮(18)、木嶋屋敷(19)、剣崎小路城(20)といった神社や城館跡が確認されている。

### 第3章 調査方法と調査の経過

#### 第1節 調査方法

八幡・六枚遺跡の第2次発掘調査は、住宅建設に伴い現状が変更される道路部分において、工事を行う前に実施した記録保存調査である。したがって、調査区域は幅約5mで、総延長約34mの南西方向に開くL形を呈する。発掘調査面積は約155㎡である。

遺構の確認は、試掘調査の成果を基にAs-B混入土の除去までを重機を使用して掘削を行い、黒褐色土(Ⅲ層、第4章基本土層参照)上面を人力で削り遺構確認作業を行なった。その際出土した遺物は、北東角部を含む北辺をⅠ区、角部を含まない東辺をⅡ区に分け、表土及び検出面で取り上げた。Ⅲ層上面の精査を行なったがはっきりと遺構を確認することが出来なかったため、調査区壁際にサブレンチを設定し掘り下げを行なったところ、Ⅰ区の西半分では遺構の形態を捉えることが出来た。Ⅰ区東半分及びⅡ区では、20～30cm掘り下げると遺構のない場所で暗褐色土(Ⅴ層)が検出された。このことからⅢ層が遺物包含層、Ⅴ層がローム新移層であり、Ⅲ層を掘り下げないと遺構確認が困難であると判断した。

遺構の掘り込みは、Ⅰ区西半分では遺構の形態を捉えることが出来たので、遺構の形態・大きさを考慮して適宜土層観察用のベルトを残し、上の堆積状況や遺物の出土状況に留意しながら行なった。Ⅰ区東半分及びⅡ区では南北方向に2本、東西方向は調査区東壁際サブレンチで確認された竪穴住居跡にかかるように5本の土層観察用ベルトを格子状に設け任意のグリッドを設定し、グリッド毎に遺物包含層の掘り下げを行なった。グリッドは東西方向を西からA～C、南北方向を北から1～6とし、A1区～C6区までの18区分とした。竪穴住居跡の掘り込みも任意のグリッドの土層観察ベルトを活用して行なった。Ⅲ層掘り下げ後に確認された土坑・ピットは、形態・大きさに応じて適宜土層観察用ベルトを設定し掘り込みを行なった。

遺物の取り上げは、遺構に伴うと判断したもの及び遺存状況の良いものは平面図作成または座標値を残して取り上げた。それ以外の遺物は出土層位に留意して層位ごとに取り上げ、グリッド設定内にある竪穴住居跡ではグリッド毎に出土層位に留意して取り上げた。

遺構の記録は、遺構実測図作成及び写真撮影を実施している。遺構実測図は、光波測距儀を用いて全体図を1/100、竪穴住居跡カマドの平面図・断面図を1/10、その他の遺構平面図・土層断面図を1/20の縮尺で図化した。写真撮影は、35mm小型一眼レフカメラとデジタル一眼レフカメラを併用して行った。35mmカメラは、モノクローム・カラーリバーサルフィルムを使用し、両者同一カットを3枚1単位で露出を変えて撮影を行った。デジタルカメラは35mmカメラの1単位につき1枚撮影をした。

## 第2節 調査の経過

### 調査日誌抄

平成 22 年 4 月 1 日	調査区設定、表土掘削開始、発掘調査道具運搬	平成 22 年 4 月 20 日	高崎市教育委員会滝沢氏来跡し、調査状況確認
平成 22 年 4 月 2 日	表土掘削終了	平成 22 年 4 月 21 日	高崎市教育委員会山口氏来跡し、調査状況確認
平成 22 年 4 月 6 日	作業員雇用開始		
平成 22 年 4 月 7 日	調査区壁際サブトレンチ掘り下り開始	平成 22 年 5 月 13 日	田口氏来跡し調査状況確認
		平成 22 年 5 月 17 日	空中写真撮影実施、掘削掘削
平成 22 年 4 月 9 日	I 区西部遺構精査開始、II 区包含層掘り下り開始	平成 22 年 5 月 19 日	田口氏来跡し調査終了確認、調査道具片付け、プレハブ・トイレ撤収
平成 22 年 4 月 14 日	II 区南部遺構精査開始		

## 第4章 検出された遺構と遺物

### 第1節 遺構の分布と基本土層

遺構分布 八幡・六枚遺跡の今回の発掘調査区では、古墳時代中期から平安時代にわたる時期の竪穴住居跡が13軒と、竪穴住居跡と同時期と考えられる十坑14基、小穴20個が確認された。竪穴住居跡を時期別に見ると、古墳時代の竪穴住居跡は5軒確認され、調査区の北側に4軒、南側に1軒分布している。そのうち、北側の2号竪穴住居跡と12号竪穴住居跡は同一の住居跡と考えられるので、古墳時代の竪穴式住居跡の実数は4軒である。奈良時代の竪穴住居跡は2軒確認され、調査区北側と南側に1軒ずつ分布している。平安時代の竪穴住居跡は4軒確認され、調査区の北側に3軒、南側に1軒分布している。竪穴住居跡が北側・東側の調査区外に延びることから、八幡遺跡から続く集落域がさらに北から東方向にかけて広がるものと考えられる。十坑・小穴は、西端部を除く調査区全域の竪穴住居跡のない部分に分布している。小穴は列状に並ぶものも見られるが、調査区が狭いため調査区内では掘立柱建物跡は確認できていない。調査区南端部西隅に礎石と思われる石が出土しており、調査区外に建物跡が存在する可能性がある。基本土層 I層は碎石を多量に含む盛土である。西端部・南端部で厚く堆積し北東へ向けて次第に薄くなり、北東角部では堆積していない。II層はAs-B軽石が混入する砂質土で、40～60cm程の厚さで堆積している。土色の違いによって3層に分けている。III層は黒褐色土で、10～20cm程の厚さで堆積している。平安時代の遺物包含層と考える。IV層は北東角部のみ堆積しており、V層への漸移層と考える。土色に違いがあるため2層に分けている。V層は暗褐色土で、10～20cm程の厚さで堆積している。ローム漸移層で、遺構確認面である。現地表面からV層までは70～100cm程の深さである。VI層はローム層、VII層はAs-Y層、VIII層は明黄褐色粘質土である。土層断面図は調査区南端部の東壁で作成し、VI層以下は竪穴住居跡の調査時に確認した。

### 第2節 竪穴住居跡

今回の発掘調査では、13軒の竪穴住居跡が検出された。そのうち、2号竪穴住居跡と12号竪穴住居跡は同一の住居跡と考えられるため実数は12軒である。遺構番号の若い順に記載していくが、12号・13号竪穴住居跡は同一図面の竪穴住居跡の次に記載する。

#### 1号竪穴住居跡 (第3・9図、写真図版1・2)

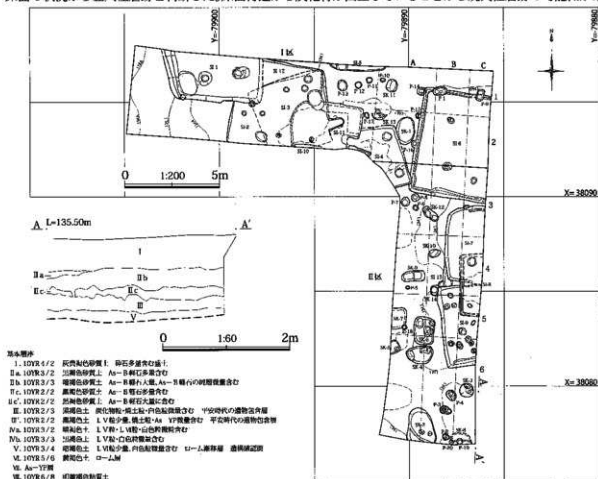
位置 I区西側(X=095～098、Y=897～903) 検出状況 表土除去後、試掘トレンチ埋土・調査区壁際サブトレンチを掘り下げて平面形を確認。南半分が検出され、北半分は調査区外に延びる。重複 3号住居跡よりも古く、2号・12号住居跡より新しい。規模 南半分のみ残存であるが、平面は東壁・西壁が西へ傾い



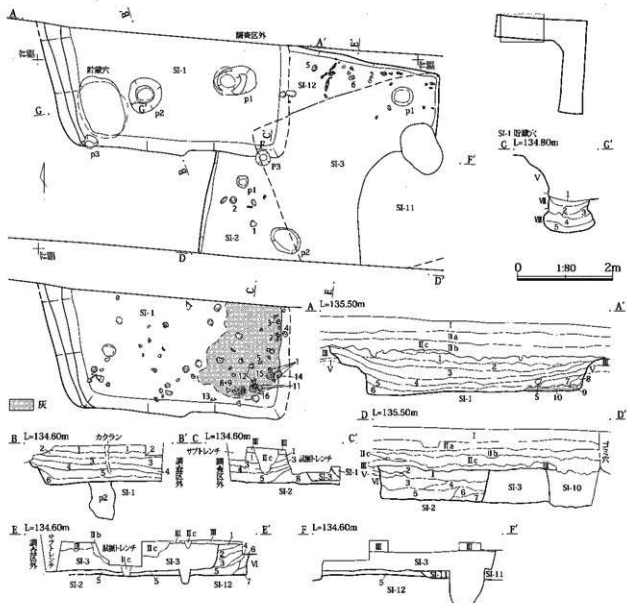
ていることから菱形の隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で [4.52] m × [2.23] m 確認。壁高は 70cm 残存。南壁方位 N 86°W 床面・掘形 床面は緩ね平坦であるが、南壁・西壁隙が若干低い。検出されたほぼ全域で土坑を重ねたような形態の掘形が確認され、粘質土を採取していた可能性がある。カマド 確認されていない。住居内施設 土坑 1 基・ピット 3 個を確認。土坑は南西隅部で確認され、1.36 m × 0.88 m、深さ 71cm、断面は下部が膨れた袋状を呈する。位置・形態から貯蔵穴と考えられる。p 1 は 90 × 58cm、深さ 88cm、p 2 は 76 × 67cm、深さ 117cm、p 3 は 30 × 27cm、深さ 63cm である。位置・規模から p 1・p 2 は柱穴と考えられる。西壁上に幅 15 ~ 34cm のテラス状の平坦部がある。出土遺物 灰層中及び床面から多量の須恵器環・高台付環・高台付皿などが出土したほか、覆土中から「片疋郡」と刻書された須恵器甕、土師器甕・台付甕・環が出土した。所見 南半分のみの検出であるが、形態・床面の状況から竪穴住居跡と判断した。所属時期は、出土遺物から 9 世紀後半頃と考えられる。

## 2号竪穴住居跡 (第3・9図、写真図版1・2)

位置 1区西側 (X=093~095, Y=897~900) 検出状況 表土除去後、試掘トレンチ埋土・調査区壁際サブトレンチを掘り下げて平面形を確認。西壁の一部のみを検出し、南壁は調査区外にある。重複 1号・3号住居跡よりも古く、12号住居跡とは不明。規模 西壁の一部のみの検出のため平面形は不明。床面幅で [2.27] m × [2.11] m 確認。壁高は 56cm 残存。西壁方位 N 10°E 床面・掘形 床面は緩ね平坦である。カマド 確認されていない。住居内施設 3個のピットを確認。p 1 は 25 × 24cm、深さ 31cm、p 2 は 68 × 52cm、深さ 18cm、p 3 は 33 × 31cm、深さ 66cm である。出土遺物 覆土中から土師器甕、須恵器高台付環が、床面から土師器環などが出土し、床面付近からは炭化材が少量出土した。所見 西壁の一部のみの検出であるが、壁面・床面の状況から竪穴住居跡と判断した。床面付近から炭化材が出土していることから焼失住居跡の可能性もある。



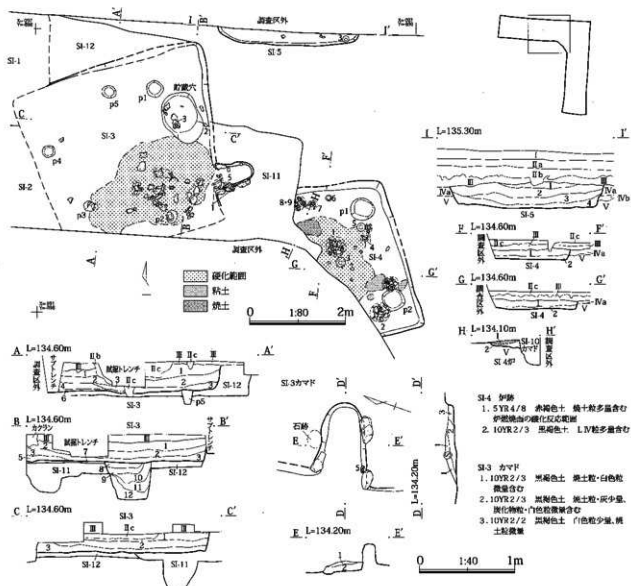
第2図 調査区全体図・基本土層



- SI-1**
1. 10YR 2/2 黒褐色土 炭化物粒・焼土粒・白色粘層を含む
  2. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粘少量、ローム層(φ 1 cm)、炭化物粒・焼土粒・As-YF積層を含む
  3. 10YR 2/3 黒褐色土 炭化物粒・焼土粒少量、ローム層(φ 1 cm)、ローム粒・炭化物(φ 1 cm)、白色粒・As-YF積層を含む
  4. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粘少量、ローム粒・炭化物粒・焼土粒・As-YF積層を含む
  5. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粘少量、ローム層(φ 1 cm)、ローム粒・炭化物粒・焼土粒・As-YF積層を含む
  6. 10YR 2/3 黒褐色土 ローム粒少量、ローム層(φ 1 ~ 3 cm)、炭化物粒・焼土粒・白色粒・As-YF積層を含む
  7. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム層・白色粘・As-YF少量、ローム層(φ 1 cm)、焼土粒少量を含む
  8. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒多量、炭化物粒・焼土粒・白色粘層を含む
  9. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒・白色粘層を含む
  10. 10YR 2/1 黒褐色土 灰大量、ローム層(φ 1 cm)、焼土粒少量を含む
- SI-1 貯蔵穴**
1. 10YR 3/3 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒・白色粘・As-YF積層を含む
  2. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム層(φ 1 cm)、炭化物粒・焼土粒・As-YF少量、ローム粒少量を含む
  3. 10YR 3/4 暗褐色土 焼土粒多量、炭化物粒・As-YF少量、ローム層(φ 1 cm)積層を含む
  4. 10YR 2/3 黒褐色土 As-YF少量、ローム層(φ 3 cm)少量、ローム粒・炭化物粒・焼土粒少量を含む
  5. 10YR 3/3 暗褐色土 As-YF少量、ローム層(φ 1 cm)暗層を含む

- SI-2**
1. 10YR 2/3 黒褐色土 ローム層(φ 3 cm)、ローム粒・白色粘・As-YF少量、炭化物粒少量を含む
  2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム層(φ 1 cm)、L.V粒・As-YF積層を含む
  3. 10YR 2/2 黒褐色土 炭化物粒・As-YF少量、ローム層(φ 3 cm)、ローム粒・白色粒・黒色土粒少量を含む
  4. 10YR 2/1 黒褐色土 焼土粒・As-YF少量、ローム層(φ 3 cm)、ローム粒・白色粘層を含む
  5. 10YR 2/2 黒褐色土 ローム層(φ 3 cm)、炭化物粒・As-YF少量、ローム層(φ 10 cm)、ローム粒・焼土粒・白色粘層を含む
  6. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム層(φ 1 cm)、ローム粒・L.V粒・白色粘・As-YF積層を含む
  7. 10YR 2/2 黒褐色土 L.V粒・As-YF少量、ローム層(φ 1 cm)、炭化物(φ 3 cm)少量を含む
  8. 10YR 2/3 黒褐色土 炭化物粒少量、ローム層(φ 5 cm)、ローム粒・L.V粒(φ 5 cm)・白色粘・As-YF積層を含む
- SI-12**
1. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粘少量、ローム層(φ 1 cm)、炭化物特層を含む
  2. 10YR 2/3 黒褐色土 ローム層(φ 1 cm)少量、ローム粒・炭化物粒・白色粘層を含む
  3. 10YR 2/2 黒褐色土 ローム層(φ 3 cm)少量、ローム粒・As-YF少量、炭化物粒・焼土粒・白色粘層を含む
  4. 10YR 2/1 黒褐色土 ローム粒・白色粘・As-YF積層を含む
  5. 10YR 2/3 黒褐色土 ローム層(φ 3 cm)、ローム粒少量、ローム層(φ 5 cm)炭化物粒・白色粘・As-YF積層を含む
  6. 10YR 2/2 黒褐色土 ローム層(φ 1 cm)炭化物粒・As-YF積層を含む
  7. 10YR 2/3 暗褐色土 ローム層(φ 1 cm)、L.V粒・炭化物粒・As-YF積層を含む

第3図 1号・2号・12号住居跡平・断面図



#### SI-3

1. 10YR2/2 黒褐色土 白色粒少量、ローム層(φ1cm)・炭化物粒・粘土粒微量含む
2. 10YR2/3 黒褐色土 ローム層(φ1cm)・白色粒少量、炭化物粒・粘土粒微量含む
3. 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ1cm)少量、ローム層(φ3cm)・白色粒微量含む
4. 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒・炭化物粒・粘土粒・白色粒微量含む
5. 10YR2/3 黒褐色土 炭土粒少量、ローム層(φ1cm)・炭化物粒・白色粒・As-YF微量含む
6. 10YR2/3 黒褐色土 ローム層(φ3cm)・白色粒少量、ローム粒微量含む
7. 10YR2/3 黒褐色土 ローム層(φ1cm)・炭化物粒・白色粒少量、ローム層(φ3cm)・ローム粒・炭土粒微量含む
8. 10YR3/3 黒褐色土 白色粒多量、ローム層(φ3cm)・As-YF微量含む 貯蔵穴壁土
9. 10YR2/2 黒褐色土 白色粒多量、ローム層(φ5cm)・As-YF少量、炭化物粒・粘土粒微量含む 貯蔵穴壁土
10. 10YR2/2 黒褐色土 ローム層(φ3cm)・粘土粒・白色粒・As-YF微量含む 貯蔵穴壁土

11. 10YR2/3 黒褐色土 As-YF少量、ローム層(φ3cm)・炭化物粒・粘土粒・白色粒微量含む 貯蔵穴壁土
12. 10YR3/3 暗褐色土 ローム層(φ1cm)・炭化物(φ1cm)・粘土粒・As-YF微量含む 貯蔵穴壁土

#### SI-4

1. 10YR2/1 黒色土 ローム粒・炭化物粒・粘土粒・白色粒・As-YF微量含む
2. 10YR2/2 黒褐色土 L.V.粒少量、ローム層(φ1cm)微量含む

#### SI-5

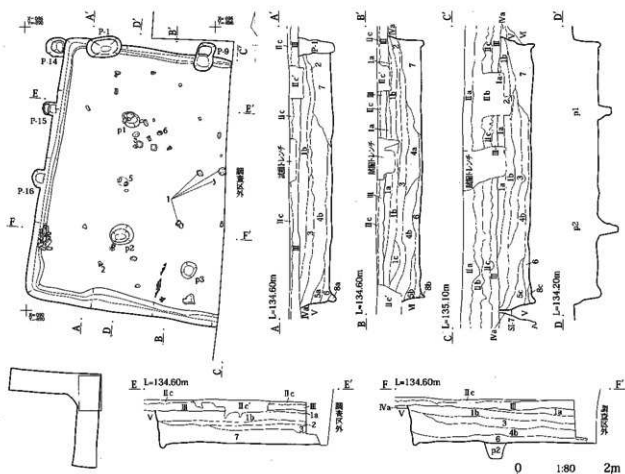
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘土粒・白色粒微量含む
2. 10YR2/3 黒褐色土 白色粒少量、ローム層(φ1cm)・ローム粒・炭土粒微量含む
3. 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒・粘土粒・白色粒少量、ローム層(φ1cm)・炭化物粒微量含む
4. 10YR2/3 黒褐色土 白色粒少量、ローム層(φ1cm)・ローム粒・粘土粒微量含む

第4図 3号~5号住居跡平・断面図

1号・3号住居跡によって分断されていたため別番号を付したが、壁面の位置関係・床面高・出土遺物から12号住居跡とは同一の竪穴住居跡と考えられる。所属時期は、出土遺物から5世紀代と思われる。

#### 12号竪穴住居跡(第3・12図、写真図版2・3)

位置 1区西側(X=092~098, Y=894~900) 検出状況 表土除去後、試掘トレンチ埋土・調査区壁際サブトレンチを掘り下げて北壁の一部を検出し、3号住居跡調査後に東壁の一部を検出。北西隅部は1号住居跡に壊されている。重複 1号・3号・11号住居跡よりも古く、2号住居跡とは不明。規模 北壁・東壁の一



SI-6

- 1a. 10YR 2/2 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・白色粒少量含む  
 1b. 10YR 2/2 黒褐色土 白色粒少量、ローム粒(φ1cm)・ローム粒・焼土粒・As-YF微量含む  
 1c. 10YR 2/2 黒褐色土 ローム塊(φ1cm)・ローム粒・As-YF少量、炭化物粒・焼土粒・白色粒少量含む  
 2. 10YR 2/2 黒褐色土 焼土粒少量、ローム塊(φ1cm)・ローム粒・炭化物粒・白色粒・As-YF微量含む  
 3. 10YR 2/2 黒褐色土 ローム塊(φ1cm)・焼土粒・白色粒・As-YF少量、ローム塊(φ3cm)・ローム粒・炭化物粒微量含む  
 4a. 10YR 2/1 黒色土 ローム塊(φ1cm)・ローム粒・L.V粒・炭化物粒・白色粒少量、As-YF微量含む  
 4b. 10YR 2/3 黒褐色土 ローム塊(φ5cm)・白色粒多量、ローム塊(φ3cm)・ローム粒・L.V粒少量、炭化物粒・焼土粒・As-YF微量含む

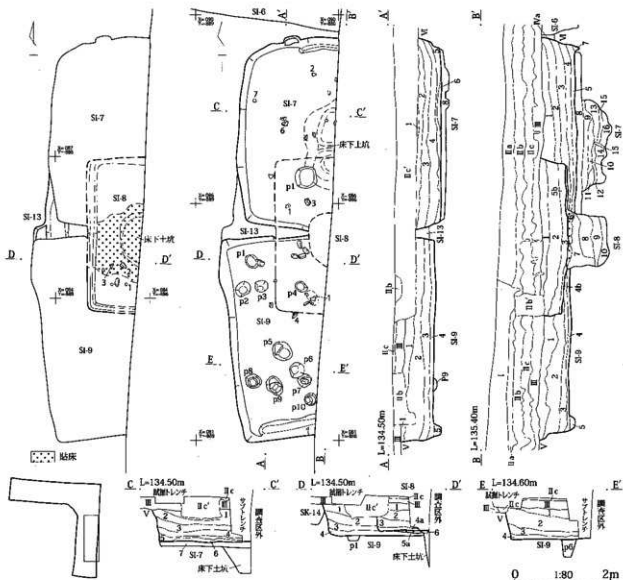
- 5a. 10YR 2/2 黒褐色土 L.V粒・白色粒少量、ローム塊(φ1cm)・As-YF微量含む  
 5b. 10YR 2/2 黒褐色土 L.V粒・炭化物粒・As-YF少量、ローム塊(φ1cm)・焼土粒・白色粒少量含む  
 5c. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒少量、ローム塊(φ1cm)・炭化物粒・白色粒・As-YF微量含む  
 6. 10YR 2/2 黒褐色土 As-YF少量、ローム塊(φ5cm)・L.V粒・炭化物粒・焼土粒・白色粒微量含む  
 7. 10YR 2/1 黒色土 ローム塊(φ7cm)多量、ローム粒・白色粒・As-YF・黒褐色土粒少量、炭化物粒・焼土粒微量含む  
 8a. 10YR 2/1 黒色土 As-YF少量含む  
 8b. 10YR 2/3 黒褐色土 As-YF少量、ローム粒・白色粒微量含む  
 8c. 10YR 3/3 暗褐色土 As-YF大塊、L.V粒微量含む

第5図 6号住居跡P・断面図

部を検出し、平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面積で [4.32] m × [3.23] m 確認。壁高は 45cm 残存。北壁方位 N 81°W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。カマド 確認されていない。住居内施設 北東隅部付近からピット1個を確認。43 × 40cm、深さ 21cm である。位置から柱穴の可能性はある。出土遺物 覆土中から土師器壺、ロクロ土師器、床面から土師器坏などの他少量の炭化材が出土した。また、12住5の下から炭化した籠状の編物が出土した。編物の縁と土器口縁部の向きが合わないことから、埋没過程で接触したものと考えられる。所見 北壁・東壁の一部の検出であるが、壁面・床面の状況から竪穴住居跡と判断した。床面付近から炭化材が出土していることから焼失住居跡の可能性はある。1号・3号住居跡によって分断されていたため別番号を付したが、壁面の位置関係・床面高・出土遺物から2号住居跡とは同一の竪穴住居跡と考えられる。所属時期は、出土遺物から5世紀代と考えられる。

### 3号竪穴住居跡 (第4・10図、写真図版2)

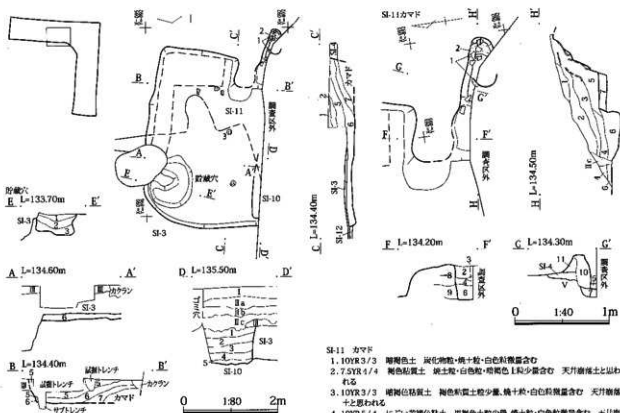
位置 1区西側 (X = 092 ~ 097, Y = 893 ~ 899) 検出状況 遺構密集地域かつIII層が残存していたことから、土層観察ベルトを設定し全体を掘り下げ、東壁の一部と床面を確認。南西隅部は調査区外にある。重複



- SI-7
1. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粒少量、炭化物粒・焼土粒・As-YF微量含む
  2. 10YR 3/2 黒褐色土 焼土粒少量、ローム粒・炭化物粒・白色粒微量含む
  3. 10YR 2/2 黒褐色土 炭化物粒・焼土粒・白色粒少量、ローム粒・As-YF微量含む
  4. 10YR 2/1 黒色土 白色粒少量、ローム粒(φ 5 cm)・炭化物粒・焼土粒・As-YF少量含む
  5. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒(φ 3 cm)・白色粒・As-YF少量、ローム粒少量、焼土粒微量含む
  6. 10YR 3/2 黒褐色土 As-YF少量、ローム粒(φ 3 cm)・ローム粒・焼土粒微量含む
  7. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粒少量、ローム粒(φ 1 cm)・焼土粒少量、As-YF微量含む
  8. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・As-YF少量含む 竪形柱土
  9. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粒少量、ローム粒(φ 3 cm)少量、焼土粒微量含む 床下土坑層上
  10. 10YR 3/3 暗褐色土 白色粒少量、ローム粒(φ 1 cm)・焼土粒・As-YF微量含む 床下土坑層上
  11. 10YR 2/2 黒褐色土 ローム粒(φ 1 cm)少量、炭化物粒・焼土粒・白色粒・As-YF微量含む 床下土坑層上
  12. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒(φ 3 cm)・焼土層(φ 1 cm)・白色粒・As-YF微量含む 床下土坑層上
  13. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粒少量、ローム粒(φ 1 cm)・As-YF少量、ローム粒(φ 3 cm)・焼土粒・白色粒微量含む 床下土坑層上
  14. 10YR 2/4 暗褐色土 焼土層・As-YF少量、ローム粒(φ 1 cm)・焼土層(φ 1 cm)・白色粒微量含む 床下土坑層上
  15. 10YR 6/6 明茶褐色土 白色粒少量、As-YF微量含む 駄馬の陥没したものか
  16. 10YR 3/3 暗褐色土 As-YF少量、ローム粒(φ 1 cm)・焼土粒・白色粒微量含む 床下土坑層上

- SI-8
1. 10YR 2/2 黒褐色土 焼土粒・白色粒・As-YF微量含む
  2. 10YR 2/3 黒褐色土 As-YF少量、ローム粒・焼土層(φ 1 cm)・白色粒微量含む
  3. 10YR 2/3 黒褐色土 ローム粒・焼土粒少量、ローム粒(φ 1 cm)・白色粒・As-YF微量含む
  4. 10YR 2/3 暗褐色土 As-YF少量、ローム粒・白色粒微量含む
  5. 10YR 3/2 暗褐色土 ローム粒少量、ローム粒(φ 3 cm)・L.V.粒・As-YF微量含む
  - 5b. 10YR 2/3 黒褐色土 ローム粒少量、ローム粒(φ 1 cm)・焼土粒・白色粒微量含む 竪形柱土
  6. 10YR 6/6 明茶褐色土 ローム粒少量、As-YF少量、黒褐色土粒微量含む 陥没
  7. 10YR 2/2 暗褐色土 ローム粒(φ 1 cm)・ローム粒少量、焼土層(φ 3 cm)・As-YF微量含む 床下土坑層上
  8. 10YR 2/3 暗褐色土 As-YF少量、ローム粒少量、ローム粒(φ 3 cm)・白色粒微量含む 床下土坑層上
  9. 10YR 2/3 黒褐色土 As-YF少量、ローム粒(φ 1 cm)微量含む 床下土坑層上
  10. 10YR 2/2 暗褐色土 As-YF少量、焼土粒微量含む 床下土坑層上
- SI-9
1. 10YR 2/2 黒褐色土 ローム粒(φ 1 cm)・ローム粒・炭化物粒微量含む
  2. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒(φ 5 cm)・白色粒・焼土粒微量含む
  3. 10YR 2/3 暗褐色土 ローム粒・白色粒少量、ローム粒(φ 3 cm)・焼土粒微量含む
  4. 10YR 2/2 暗褐色土 ローム粒(φ 3 cm)・ローム粒少量、炭化物粒・白色粒微量含む
  5. 10YR 2/3 暗褐色土 ローム粒(φ 1 cm)少量、ローム粒・白色粒・As-YF微量含む
- SI-13
1. 10YR 2/2 暗褐色土 ローム粒少量、ローム粒(φ 10 cm)・焼土粒微量含む

第6図 7号~9号・13号住居跡平・断面図



SI-10

1. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粒少量、ローム粒・炭化物粒・焼土粒層を含む
2. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粒・焼土粒・白色粒層を含む
3. 10YR 2/2 黒褐色土 白色粒少量、焼土粒・白色粒・As-YF層を含む
4. 10YR 2/2 黒褐色土 炭化物粒少量、ローム層(φ 3 cm)・ローム粒・焼土粒・白色粒・As-YF層を含む
5. 10YR 2/2 黒褐色土 白色粒・焼土粒・As-YF少量、ローム層(φ 3 cm)・炭化物(φ 1 cm)層を含む

SI-11

1. 10YR 3/3 暗褐色土 白色粒(φ 3 cm)・白色粒少量、焼土粒層を含む
2. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粒・焼土粒・白色粒層を含む
3. 10YR 3/4 暗褐色土 白色粒(φ 1 cm)少量、炭化物粒・白色粒層を含む
4. 10YR 2/3 暗褐色土 白色粒少量、ローム層を含む
5. 10YR 2/3 暗褐色土 白色粒少量、ローム層(φ 1 cm)・焼土粒層を含む
6. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粒・As-YF少量、ローム層(φ 1 cm)・焼土粒層を含む
7. 10YR 2/2 黒褐色土 褐色粒土少量、ローム粒・炭化物粒・焼土粒・白色粒層を含む

SI-11 カマド

1. 10YR 3/3 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒・白色粒層を含む
2. 7.5YR 1/4 褐色粘質土 焼土粒・白色粒・暗褐色土粒少量含む
3. 10YR 3/3 暗褐色粘質土 褐色粘質土粒少量、焼土粒・白色粒層を含む
4. 10YR 5/4 に近い、黄褐色粘土 黄褐色粘土粒少量、焼土粒・白色粒層を含む
5. 10YR 3/3 暗褐色土 焼土粒多量、炭化物粒少量、に白い褐色粒土粒層を含む
6. 10YR 2/3 黒褐色土 炭化物粒多量、褐色粘土粒・焼土粒少量、白色粒層を含む
7. 10YR 3/4 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒(φ 1 cm)・焼土粒・白色粒層を含む
8. 10YR 3/3 暗褐色土 褐色粘土多量、焼土粒・白色粒層を含む
9. 10YR 3/3 暗褐色土 白色粒・炭化物粒・焼土粒・白色粒層を含む
10. 10YR 4/6 褐色粘質土 褐色粘質土粒少量、白色粒層を含む
11. 10YR 3/4 暗褐色土 焼土粒・白色粒・黒褐色土粒層を含む

SI-11 貯蔵穴

1. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粒(φ 1 cm)・炭化物粒・焼土粒・白色粒・As-YF層を含む
2. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粒少量、ローム層(φ 3 cm)・炭化物粒・焼土粒・As-YF層を含む
3. 10YR 2/3 黒褐色土 白色粒(φ 1 cm)少量、ローム層(φ 1 cm)・焼土粒層を含む

第7図 10号・11号住居跡平・断面図

1号・10号住居跡よりも古く、2号・11号・12号住居跡よりも新しい。規模 平面は北東隅部が張り出す隅丸不整形を呈すると思われる。床面幅で [4.00] m × [3.29] m、張り出す北壁部は [4.00] m × [4.08] m確認。壁高は41cm残存。北壁方位 N 69° E 床面・掘形 床面は概ね平坦であるが、西側が若干低い。カマド前面にあたる住居跡南半分は床面が硬化している。カマド 住居跡東壁の南隅寄りに位置する。竪穴外部に造られた石組みのカマドで、大半の石は取り外されたと思われる。主軸方位 N 73° E、焚口幅46cm、燃烧部幅40cm、奥行き84cmである。住居内施設 土坑1基とピット5個を確認。土坑は東壁際の硬化床面西側に位置し、111 × 78cm、深さ74cmである。位置・形態から貯蔵穴と考えられる。p1は直径35cm、深さ23cm、p2は27 × 22cm、深さ25cm、p3は26 × 24cm、深さ24cm、p4は直径25cm、深さ25cm、p5は31 × 25cm、深さ24cmである。位置からp1・p2は柱穴と考えられる。出土遺物 覆土中から土師器壺、須恵器壺・甕、カマドから土師器甕、須恵器高台付床、貯蔵穴から須恵器壺・坏などが出土した。所見 南東隅部にカマドを有し、北東隅部が張り出す貯蔵穴住居跡である。カマド前面の床面は硬化していた。所属時期は、出土遺物から8世紀後半から9世紀前半頃と考えられる。

#### 4号竪穴住居跡 (第4・10図、写真図版2・3)

位置 I区東側 (X=090~094, Y=890~893) 検出状況 III層を掘り下げた後、平面形を確認。北壁・南壁の一部と東壁を検出し、北西隅部は11号住居跡に壊され、南西部は調査区外にある。重複 11号住居跡より古く、6号住居跡・1号土坑よりも新しい。規模 東半分のみが残存であるが、平面は東壁がわずかに西へ傾いていることから菱形の隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で3.57m×[2.04]m確認。壁高は23cm残存。東壁方位 N17°W 床面・掘形 床面は概ね平坦で、中央部では硬化面を確認。カマド 確認されていない。住居内施設 焼土範囲、ピット2個を確認。焼土範囲は住居跡北壁際の中央部に位置し、炉跡と考えられる。p1は50×48cm、深さ10cm、p2は50×46cm、深さ13cmである。p1・p2ともに浅いが位置から柱穴と考えられる。出土遺物 床面から土師器壺・小型甕・鉢・環・高環・把手付甕が出土し、南東隅部付近からは白色粘土がまとまって出土した。所見 東半分のみを検出であるが、床面の状況・炉跡と考えられる焼土から竪穴住居跡と判断した。朝鮮半島に由来する土器がもつ特徴のひとつである把手が付く甕が出土していることから、朝鮮半島文化の影響を受けたものと思われる。所属時期は、出土遺物から5世紀代と考えられる。

#### 5号竪穴住居跡 (第4・11図 写真図版3)

位置 I区東側 (X=096~097, Y=891~895) 検出状況 表土除去後、調査区壁際サブトレンチを掘り下げて南壁を確認。大半が調査区外にある。重複 重複遺構はない。規模 南壁のみを検出であるため全容は不明だが、平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で2.84m×[0.40]m確認。壁高は48cm残存。南壁方位 N88°W 床面・掘形 床面は概ね平坦であるが、西側が若干高い。カマド 確認されていない。住居内施設 確認されていない。出土遺物 覆土中から須恵器杯蓋・高台付杯、床面から須恵器杯が出土した。所見 南壁のみを検出であるが、形態・床面の特徴から竪穴住居跡と判断した。所属時期は、出土遺物から8世紀後半から9世紀頃と考えられる。

#### 6号竪穴住居跡 (第5・11図、写真図版2・3)

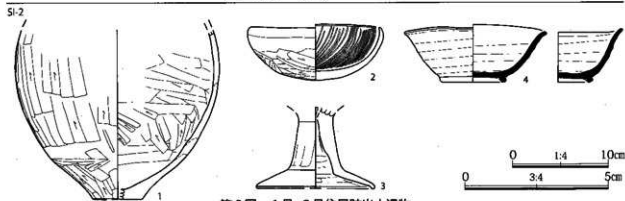
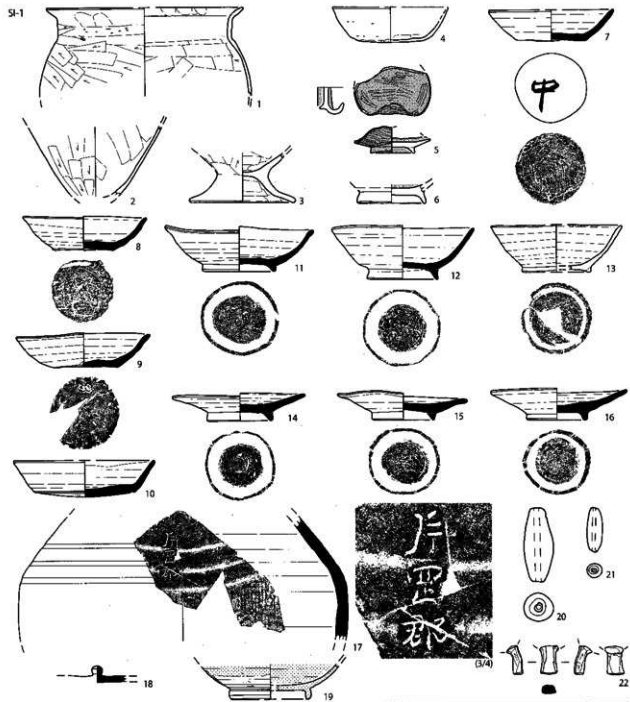
位置 I区東側 (X=089~096, Y=886~890) 検出状況 III層を掘り下げた後、平面形を確認。西壁、北壁・南壁約半分を検出し、東壁は調査区外にある。重複 4号住居跡・P1・P9・P14よりも古い。P15・P16とは新旧不明。規模 西側約2/3を検出しており、平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で5.26m×[3.94]m確認。壁高は73cm残存。西壁方位 N9°E 床面・掘形 床面は概ね平坦であるが、中央部が若干低い。カマド 確認されていない。住居内施設 ピット3個と周溝を確認。p1は40×30cm、深さ37cm、p2は48×43cm、深さ43cm、p3は35×31cm、深さ32cmである。位置からp1・p2は柱穴と考えられる。周溝は確認された全域に巡り、上端幅16~46cm、深さ3~14cmである。出土遺物 覆土中から土師器杯、須恵器長頸壺、床面から土師器壺・環などが出土した。所見 形態・床面の特徴から、西側約2/3が検出された竪穴住居跡と判断した。所属時期は、出土遺物から5世紀代と考えられる。

#### 7号竪穴住居跡 (第6・11図、写真図版3)

位置 II区北側 (X=085~090, Y=886~889) 検出状況 III層を掘り下げた後、平面形を確認。西壁、北壁・南壁の一部を検出し、東壁は調査区外にある。南壁は8号住居跡によって壊されている。重複 8号住居跡より古く、13号住居跡よりも新しい。規模 西側約半分が確認されており、平面は辺中央部が外側に膨らむやや丸みを帯びた隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で[3.80]m×[1.97]m確認。壁高は57cm残存。西壁方位 N1°W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。深さ約10cmの掘形があり、床面ほぼ中央で193×[63]cm、深さ53cmの床下土坑を確認。カマド 確認されていない。住居内施設 ピット1個と周溝を確認。p1は46×45cm、深さ53cmである。位置から柱穴と考えられる。周溝は北壁の中央部で確認され、上端幅25~31cm、深さ7~10cmである。出土遺物 覆土中から土師器台付甕・杯、須恵器高台付杯・杯蓋、床面から須恵器長頸壺蓋などが出土した。所見 西半分のみを検出であるが、形態・床面の特徴からやや丸みを帯びた竪穴住居跡と判断した。所属時期は、出土遺物から8世紀代と考えられる。

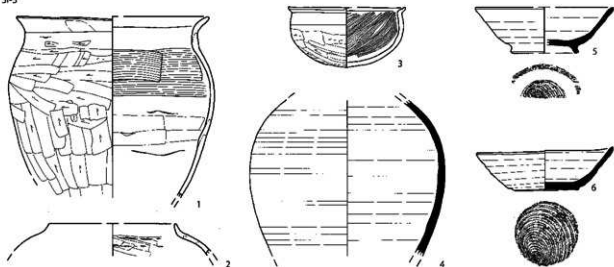




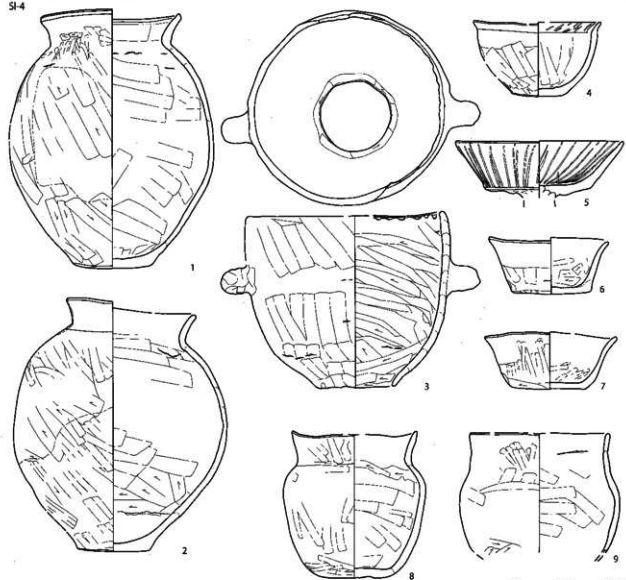


第9圖 1号・2号住居跡出土遺物

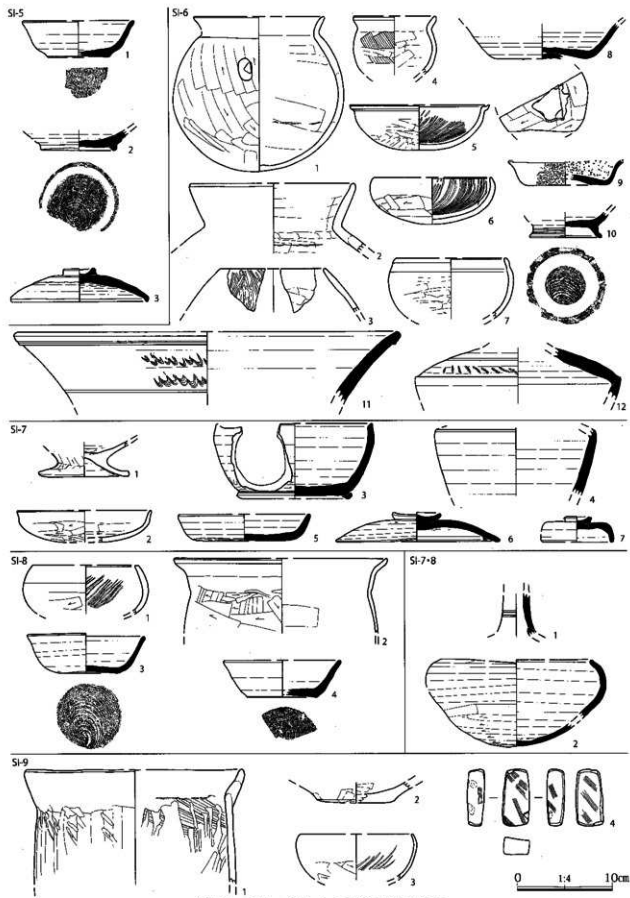
SI-3



SI-4

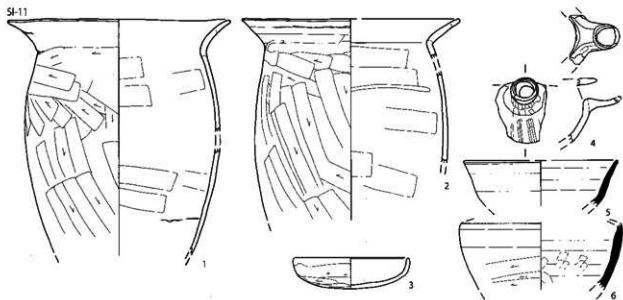


第10图 3号·4号住居跡出土遺物

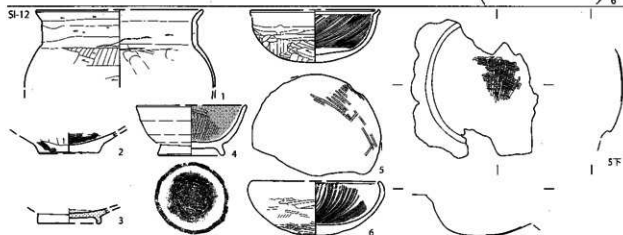


第11圖 5号~9号、8・7号住居跡出土遺物

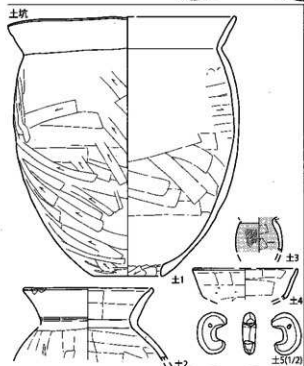
SI-11



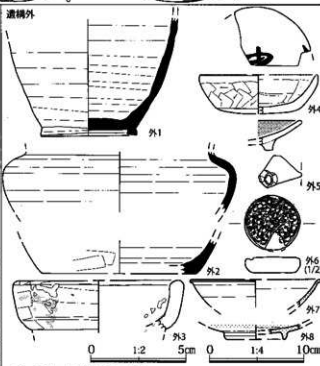
SI-12



土坑



遺構外



第12图 11号·12号住居跡·土坑·遺構外出土遺物

#### 8号竪穴住居跡 (第6・11図、写真図版3)

位置 II区北側 (X=083~087, Y=886~888) 検出状況 III層掘り下げ後、全面遺構覆土であったため確認できず、土層観察ベルトを残して掘り下げ、床面を確認。東側約2/3は調査区外にある。重複 7号・9号・13号住居跡よりも新しい。規模 西側約1/3を確認し、平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で3.03m×[1.10]m確認。壁高は31cm残存。西壁方位 N1°W 床面・掘形 床面は概ね平坦であるが、南壁側が若干高い。深さ5cm程の掘形があり、南北幅のほぼ中央にはロームを埋めた貼床を確認。また、床面中央部には126×[46]cm、深さ85cmの床下土坑を確認。カマド 確認されていない。住居内施設 確認されていない。出土遺物 覆土中から土師器壺・坏、須恵器环などが出土した。所見 床面の特徴から、西側約1/3が確認された竪穴住居跡と判断した。所属時期は、出土遺物から9世紀代と考えられる。

#### 9号竪穴住居跡 (第6・11図、写真図版3)

位置 II区南側 (X=081~086, Y=886~889) 検出状況 III層掘り下げ後、平面形を確認。西壁、北壁・南壁の一部を確認し、東壁は調査区外にある。重複 8号住居跡より古く、13号住居跡・14号土坑よりも新しい。規模 北壁の一部が8号住居跡によって壊されているが、西側約半分が確認されており、平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で3.81m×[2.10]m確認。壁高は70cm残存。西壁方位 N7°W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。カマド 確認されていない。住居内施設 ビット10個と周溝を確認。p1は32×25cm、深さ7cm、p2は33×27cm、深さ16cm、p3は26×24cm、深さ21cm、p4は27×20cm、深さ48cm、p5は45×39cm、深さ51cm、p6は34×31cm、深さ35cm、p7は直径28cm、深さ64cm、p8は33×29cm、深さ33cm、p9は43×33cm、深さ28cm、p10は直径25cm、深さ37cmである。位置・深さからp4とp6かp7が柱穴と考えられる。周溝は南壁で確認され、上端幅38~41cm、深さ10~12cmである。出土遺物 覆土中から土師器壺・坏、床面から砥石などが出土した。所見 形態・床面の特徴から、西側約半分が確認された竪穴住居跡と判断した。所属時期は、出土遺物から5世紀代と考えられる。

#### 13号竪穴住居跡 (第6図、写真図版3)

位置 II区北側 (X=085~087, Y=887~889) 検出状況 III層掘り下げ後、平面形を確認。西壁の一部を検出し、その他は7号~9号住居跡によって壊されている。重複 7~9号住居跡、14号土坑より古い。規模 7号~9号住居跡によって大半が壊されているため、平面形は不明。床面幅で[1.48]m×[0.39]m確認。壁高は約10cm残存。西壁方位 N2°W 床面・掘形 床面は概ね平坦と思われる。カマド 確認されていない。住居内施設 周溝を確認。上端幅46cm、深さ5cmである。出土遺物 確認できなかった。所見 西壁のごく一部が確認されたのみであるが、壁面がほぼ真っ直ぐであること、床面が概ね平坦であることから、竪穴住居跡の一部と判断した。所属時期は、遺構の切り合い関係から6世紀代以前と考えられる。

#### 10号竪穴住居跡 (第7図)

位置 I区西側 (X=092~093, Y=895~896) 検出状況 11号住居跡の床面で確認。北壁の一部を検出し、大半が調査区外にある。重複 3号・11号住居跡より新しい。規模 大半が調査区外にあるため、平面形は不明。上端幅で[0.86]m×[0.22]m確認。壁高は65cm残存。北壁方位 N81°W 床面・掘形 床面は概ね平坦と思われる。カマド 確認されていない。住居内施設 確認されていない。出土遺物 覆土中から土師器片が出土したが図示し得る遺物はない。所見 大半が調査区外にあるが、土層断面で確認された底面・壁面の状況から竪穴住居跡と判断した。所属時期は、遺構の切り合い関係から、10世紀以降と考えられる。

#### 11号竪穴住居跡 (第7・12図、写真図版3)

位置 I区東側 (X=092~095, Y=892~897) 検出状況 III層掘り下げ後、平面形を確認。北壁、東壁・西壁の一部を検出し、南半分は調査区外にある。重複 3号・10号住居跡よりも古く、4号住居跡よりも新しい。規模 北半分のみを検出だが、平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で3.53m×[2.42]m確認。壁高は48cm残存。北壁方位 N80°W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。カマド 東壁のほぼ中央に位置する。南半分は調査区外にあり、北半分のみ確認。焚口幅[27]cm、燃燒部幅[28]cm、奥行98cmである。煙道部は

幅 [23] cm、奥行 68cm で、土師器裏 2 点が煙突状に設置されていた。住居内施設 北西隅部から上坑 1 基を確認。112 × [84]cm、深さ 51cm である。位置から貯蔵穴と考えられる。出土遺物 覆土中から土師器環、カマドから土師器環、貯蔵穴から注口付埴などが出土した。所見 北半分のみが確認された、東壁中央部にカマドを有する竪穴住居跡である。所属時期は、出土遺物から 8 世紀前半頃と考えられる。

### 第 3 節 その他の遺構

今回の発掘調査区域で検出された竪穴住居跡以外の遺構は、土坑 14 基、ピット 20 個である。今回の報告では、各遺構の位置関係を把握できるように個別の遺構平面図ではなく、土坑・ピットの確認された調査区 2ヶ所の平面図を提示し、土層断面図を併記している。各遺構の詳細については、遺構観察表で対応した。

### 第 4 節 まとめ

今回の発掘調査で確認された遺構は、竪穴住居跡 13 軒、土坑 14 基、ピット 20 個である。竪穴住居跡は古墳時代が 5 軒（そのうち 2 軒は同一の住居跡と考えられるため実数は 4 軒）、奈良・平安時代が 6 軒、時期不明が 2 軒であった。竪穴住居跡は調査区域の北側と東側に延びていることから、八幡遺跡から続く集落域がさらに北・東方向に広がるものと考えられる。今回の発掘調査で特筆されることとして、1 号竪穴住居跡の覆土中から「片疋部」と刻書された須恵器環が出土したことが挙げられる。「疋」の字は、高崎市吉井町池字御門に所在する和暦四年（711 年）の多胡郡設置を記した多胡碑文中の片疋部と同じ字体で、「岡」の異体字である。郡名全てが刻まれていることから、周辺に片岡部の中樞施設があったと考えられる根拠となりうる資料と思われる。また、4 号竪穴住居跡から把手の付く土師器甕が出土している。この土器が韓式系土器の持つ特徴のひとつを有していることから、本遺跡は朝鮮半島からの渡来文化の影響を受けていたものと考えられる。今後、周辺地域での発掘調査事例が増えることで八幡遺跡から続く集落や片岡部に関するさらなる資料が得られることを期待したい。

#### 参考文献

- 高崎市教育委員会 2009 高崎市文化財調査報告書第 248 集 『岡崎・稲荷塚遺跡 2』  
 高崎市教育委員会 1982 高崎市文化財調査報告書第 31 集 『八幡中塚遺跡』  
 高崎市教育委員会 1989 高崎市文化財調査報告書第 91 集 『八幡遺跡』  
 高崎市史編さん委員会 2003 『新編 高崎市史 遺史編 1 原始古代』  
 高崎市史編さん委員会 2000 『新編 高崎市史 資料編 2 原始古代 II』  
 高崎市史編さん専門委員会 2000 『高崎市史研究 第 12 号』

土坑観察表

遺構番号	出土位置	座標	検出層	平面形	高輪方位	法 量 ( ): 測定 ( ): 遺存			備考
						長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	
S K 1	I 区東側	X = 092 ~ 095 Y = 889 ~ 891	LV	楕円形	N 9° E	1.46	0.95	0.08	1号住居跡より古 第 12 区土 1・土 2 出土
S K 2	II 区南側	X = 077 ~ 079 Y = 888 ~ 891	LV	楕円形	N 8° W	1.90	1.55	0.15	遺跡に 2 個小穴 (深さ 14cm・39cm)
S K 3	II 区東側	X = 079 ~ 081 Y = 886 ~ 888	LV	不正円形	—	0.71	0.70	0.19	遺跡に 2 個小穴 (深さ 17cm・33cm)
S K 4	II 区南側	X = 081 ~ 083 Y = 888 ~ 890	LV	楕円形	N 80° E	1.43	0.94	0.13	遺跡に 2 個小穴 (深さ 26cm・29cm) 第 12 区土 4 出土
S K 5	II 区南側	X = 081 ~ 083 Y = 890 ~ 891	LV	楕円長方形	N 84° E	[0.64]	0.66	0.19	遺跡に 1 個小穴 (深さ 58cm) 第 12 区土 5 出土
S K 6	II 区東側	X = 082 ~ 084 Y = 888 ~ 890	LV	楕円長方形	N 2° E	1.47	1.10	0.16	遺跡に 4 個小穴 (深さ 18cm・26cm・37cm・40cm)
S K 7	II 区東側	X = 083 ~ 085 Y = 890 ~ 891	LV	楕円長方形	N 80° W	1.14	[0.80]	0.09	行梨塚遺跡瓦片 (第 12 区土 3) 出土
S K 8	II 区南側	X = 076 ~ 078 Y = 886 ~ 888	LV	楕円長方形	N 1° W	[0.63]	1.20	0.19	P 10・P 20 より新
S K 9	II 区北側	X = 085 ~ 087 Y = 889 ~ 891	LV	楕円形	N 85° E	1.23	0.59	0.23	
S K 10	II 区北側	X = 086 ~ 087 Y = 888 ~ 889	LV	楕円形	N 75° E	0.62	0.40	0.39	
S K 11	I 区東側	X = 095 ~ 097 Y = 890 ~ 892	LV	楕円形	N 15° E	0.66	0.57	0.21	
S K 12	II 区北側	X = 088 ~ 090 Y = 888 ~ 890	LV	楕円形	N 48° W	0.97	0.47	0.44	
S K 13	I 区東側	X = 094 ~ 095 Y = 891 ~ 892	LV	小楕円形	—	[0.83]	[0.33]	0.15	遺跡に 2 個小穴 (深さ 30cm・45cm)
S K 14	II 区北側	X = 084 ~ 086 Y = 888 ~ 889	LV	不正円形	—	0.56	[0.40]	0.58	9号住居跡より古

ピット観察表

遺構番号	出土位置	座標	層上	法 量 ( ): 測定 ( ): 遺存			備考
				長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	
ピット 1	I 区東側	X = 095 ~ 096 Y = 888 ~ 889	高輪位土	(73)	(44)	63	6号住居跡より新 P 9・P 14 と関連あるか?
ピット 2	II 区南側	X = 077 ~ 078 Y = 887 ~ 889	高輪位土	38	32	30	
ピット 3	II 区南側	X = 078 ~ 079 Y = 887 ~ 889	高輪位土	64	41	30	東壁中央部が盛り上がる
ピット 4	II 区南側	X = 079 ~ 080 Y = 887 ~ 889	高輪位土	61	45	51	

ビット観察表

道標番号	山十位置	地層	層土	法 量 ( ): 軸差 ( ): 連打			備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	
ビット 5	Ⅱ区北側	X = 085 ~ 086 Y = 890 ~ 891	黒褐色土	23	18	14	
ビット 6	Ⅱ区北側	X = 089 ~ 090 Y = 889 ~ 890	黒褐色土	32	28	24	
ビット 7	Ⅱ区北側	X = 089 ~ 090 Y = 890 ~ 891	暗褐色土	48	46	25	
ビット 8	Ⅱ区北側	X = 089 ~ 091 Y = 889 ~ 890	黒褐色土	42	39	22	
ビット 9	Ⅱ区東側	X = 095 ~ 096 Y = 885 ~ 887	黒土	61	36	67	6号位跡跡より南 F1・P14と関連あるか?
ビット 10	Ⅱ区東側	X = 096 ~ 097 Y = 891 ~ 892	暗褐色土	27	22	9	
ビット 11	Ⅱ区東側	X = 096 ~ 097 Y = 891 ~ 893	黒褐色土	32	30	15	
ビット 12	Ⅱ区東側	X = 095 ~ 097 Y = 892 ~ 893	暗褐色土	35	34	8	
ビット 13	Ⅱ区東側	X = 095 ~ 097 Y = 893 ~ 894	黒褐色土	59	49	4	
ビット 14	Ⅱ区東側	X = 095 ~ 096 Y = 889 ~ 890	暗褐色土	(48)	40	63	6号位跡跡より南 F1・P9と関連あるか?
ビット 15	Ⅱ区東側	X = 094 ~ 095 Y = 889 ~ 890	暗褐色土	27	[22]	37	5号位跡跡跡より南の可能性がある
ビット 16	Ⅱ区東側	X = 092 ~ 093 Y = 889 ~ 890	黒褐色土	38	[24]	26	6号位跡跡跡に付するもの可能性がある
ビット 17	Ⅱ区東側	X = 094 ~ 095 Y = 892 ~ 893	黒褐色土	33	24	26	
ビット 18	Ⅱ区南側	X = 083 ~ 084 Y = 890 ~ 891	黒褐色土	25	22	20	7号位跡より北
ビット 19	Ⅱ区南側	X = 076 ~ 078 Y = 887 ~ 888	黒褐色土	[31]	28	45	8号位跡より北
ビット 20	Ⅱ区南側	X = 076 ~ 078 Y = 887 ~ 888	黒褐色土	24	22	48	8号位跡より北

山十土層観察表

区	番号	山十位置	種別・器種	法 量 (上標記): 連打		土質	構成	色調	器形、式、番号、文様等の材質	遺存状況	
				口径 (cm)	底径 (cm)						高さ (cm)
9区	1作1	S 11 床面	土師器 甕	(20.0)	-	[9.4]	普通	良好	明茶褐色	外底: 曲線付ナデ 内底: ナデ ヘラズリ 胴内: ヘラズリ ナデ	胴部 1/3
9区	1作2	S 11 床面	土師器 甕	-	-	[9.4]	普通	良好	黒褐色	外底: ヘラズリ ナデ 内底: ヘラズリ ナデ	胴部 1/3
9区	1作3	S 11 床面	土師器 内付甕	11.2	(5.7)		普通	良好	明茶褐色	外底: ヘラズリヘラズリ ナデ 内底: ヘラズリ ナデ ヘラズリ	胴下部 1/3 台部 2/3
9区	1作4	S 11 床土	土師器 杯	(12.3)	7.0	3.8	普通	良好	褐色	外底: ナデ ヘラズリ 内底: ナデ 蓋部E造	底面 1/3 高台部E造
9区	1作5	S 11 床面	土師器 鉢	8.11	4.6	2.8	普通	良好	褐色	外底: ヘラズリナデ ナデ 蓋部凹輪ヘラズリ後高台付付 内底: ナデ 蓋部凹輪前部付付ヘラズリナデ 黒褐色	底面 1/2 高台部E造
9区	1作6	S 11 覆土	土師器 高台付甕	-	7.4	[2.0]	普通	良好	褐色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪ヘラズリ後高台付付 内底: ナデ 黒褐色	高台部 ほぼ完全
9区	1作7	S 11 床面	土師器 杯	(13.1)	7.3	3.3	中々粗	良好	黄灰色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪糸切り、蓋部「巾」か? 内底: ロクロナデ	底面 1/8 底面E造
9区	1作8	S 11 床面	土師器 杯	13.7	6.5	3.6	普通	良好	黄灰色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪糸切り 内底: ロクロナデ	ほぼ完全
9区	1作9	S 11 床面	土師器 杯	14.2	7.0	3.6	普通	良好	灰白色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪糸切り 内底: ロクロナデ	ほぼ完全
9区	1作10	S 11 覆土	土師器 高台付甕	(15.0)	(10.5)	3.9	普通	良好	灰白色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪糸切り後高台付付 内底: ロクロナデ	底面 1/4 底面 1/2
9区	1作11	S 11 床面	土師器 高台付甕	15.8	7.8	4.8	普通	良好	黄灰色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪糸切り後高台付付 内底: ロクロナデ	ほぼ完全
9区	1作12	S 11 床面	土師器 高台付甕	15.1	7.5	5.7	普通	良好	灰白色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪糸切り後高台付付 内底: ナデ 蓋部凹輪糸切り後高台付付	ほぼ完全
9区	1作13	S 11 床面	土師器 高台付甕	(13.8)	(7.2)	6.1	中々粗	普通	灰白色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪糸切り後高台付付 内底: ロクロナデ	底面 1/2 高台部E造
9区	1作14	S 11 床面	土師器 高台付甕	14.0	6.9	2.9	普通	良好	灰白色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪糸切り後高台付付 内底: ロクロナデ	ほぼ完全
9区	1作15	S 11 床面	土師器 高台付甕	13.8	6.6	3.0	普通	良好	灰白色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪糸切り後高台付付 内底: ロクロナデ	ほぼ完全
9区	1作16	S 11 床面	土師器 高台付甕	14.4	6.4	3.4	普通	良好	灰白色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪糸切り後高台付付 内底: ロクロナデ	完全
9区	1作17	S 11 覆土	土師器 甕	-	-	[13.2]	中々粗	良好	灰白色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪糸切り後高台付付 内底: ナデ 蓋部「凹」部 蓋部: ロクロナデ後出で共製	胴部E
9区	1作18	S 11 覆土	土師器 杯	1.1	-	[1.7]	普通	良好	灰色	蓋部E造のつまみ。 外底: ナデ ヘラズリ 内底: ロクロナデ	胴部E
9区	1作19	S 11 覆土	土師器 高台付甕	-	(8.3)	[3.7]	普通	良好	灰色	外底: 凹輪ヘラズリ ロクロナデ 蓋部凹輪ヘラズリ 内底: ロクロナデ ナデ	胴部E内面 1/2
9区	2作1	S 12 床面	土師器 甕	-	(5.4)	[18.5]	普通	良好	暗褐色	外底: ヘラズリ 内底: ヘラズリ ナデ	胴部 1/3
9区	2作2	S 12 床面	土師器 杯	13.8	-	5.9	普通	良好	暗褐色	外底: 蓋部「ナデ」ヘラズリ 内底: ナデ 蓋部E造ヘラズリ	ほぼ完全
9区	2作3	S 12 覆土	土師器 高台付甕	-	(12.6)	[8.6]	中々粗	良好	褐色	外底: ヘラズリ ナデ 内底: 蓋部E造 ヘラズリ ナデ	胴部 1/3
9区	2作4	S 12 p3	土師器 高台付甕	15.0	7.0	6.1	中々粗	良好	灰白色	外底: 蓋部E造 蓋部E造 蓋部E造 内底: ナデ 蓋部E造 蓋部E造	ほぼ完全
10区	3作1	S 13 カマド	土師器 甕	20.4	-	[19.2]	普通	良好	にじみ褐色	外底: ナデ 蓋部E造 蓋部E造 内底: ナデ ナデ ナデ	口縁~胴部 2/3
10区	3作2	S 13 床土	土師器 底門型?	(13.4)	-	[3.4]	普通	良好	褐色	口縁部が強く内底する。 外底: ナデ 内底: ナデ ヘラズリ	口縁~胴部
10区	3作3	S 13 床土	土師器 杯	(12.4)	-	6.4	普通	良好	褐色	口縁部が外側に、丸底を穿する。1周部を縁かにかみ 上っている。 外底: ナデ ヘラズリ 内底: ナデ 蓋部E造ヘラズリ	1/4
10区	3作4	S 13 形跡穴	土師器 高台付甕	-	-	[16.4]	普通	良好	黄灰色	外底: 蓋部E造 蓋部E造 内底: ロクロナデ	胴部E
10区	3作5	S 13 カマド	土師器 高台付甕	(14.7)	(7.2)	4.9	普通	良好	にじみ褐色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪糸切り後高台付付 内底: ロクロナデ	1/5
10区	3作6	S 13 形跡穴	土師器 杯	14.5	6.9	4.5	普通	良好	灰白色	外底: ロクロナデ 蓋部凹輪糸切り後高台付付 内底: ロクロナデ	ほぼ完全
10区	4作1	S 14 床面	土師器 甕	14.9	7.8	27.4	中々粗	良好	黄褐色	外底: ロクロナデ ナデ 蓋部E造 ナデ 蓋部E造 内底: ナデ ナデ ナデ	ほぼ完全
10区	4作2	S 14 床面	土師器 甕	13.7	7.6	26.8	中々粗	良好	黄褐色	蓋部E造が内側に付いている。 外底: ナデ 内底: ナデ ナデ ナデ 蓋部E造あり、2次蓋部ありか? 内底: ナデ ヘラズリ	ほぼ完全

出上土器観察表

周	番号	出土位置	種別・名称	径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎土	施文	色調	器形・模文・文様等の特徴	保存状況
10	4位3	S 14 床面	土師器 肥土付甕	(20.7)	8.1	18.6	普通	良好	灰白色	横文土師土器の受け付けた平弁を有する甲片甕。口径7.5cm。胴・肩が大々外傾し胴部から口縁部にかけては細かな縦文に施され、口縁部は内側に浅く滑らかな波状模文に施される。内面・外面に赤褐色の土質を有する。内面・外面に赤褐色の土質を有する。内面・外面に赤褐色の土質を有する。内面・外面に赤褐色の土質を有する。	口縁一部 欠損 胴部一部 欠損
10	4位4	S 14 床面	土師器 鉢	13.5	5.7	8.1	普通	良好	赤褐色	外面：ナデ 内面：ナデ後ヘラツリ 外底：ナデ後ヘラツリ	1/2
10	4位5	S 14 床面	土師器 高杯	17.9	—	16.0	普通	良好	褐色	外面：ナデ後放射状ヘラツリガキ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	片断存在
10	4位6	S 14 床面	土師器 杯	12.7	5.5	6.1	普通	良好	明赤褐色	底は平底で横肋骨状を有する。総動径2.2cm。横文土師土器の形。外面：ナデ 内面：ナデ後ヘラツリ	存在
10	4位7	S 14 床面	土師器 杯	14.1	8.1	6.1	普通	良好	灰白色	底は平底で横肋骨状を有する。総動径2.4cm。横文土師土器の形。外面：ナデ 内面：ナデ後ヘラツリ	ほぼ存在
10	4位8	S 14 床面	土師器 小型甕	(13.2)	6.8	15.5	中平軀	良	赤赤褐色	二枚破れか？ 外面：ナデ後ヘラツリ 内面：ナデ 後ヘラツリ	口縁一部 欠損 1/3 片断存在
10	4位9	S 14 床面	土師器 小型甕	(14.0)	—	112.0	中平軀	良	灰褐色	二枚破れか？ 外面：ナデ後ヘラツリ 内面：ナデ 後ヘラツリ	口縁部 1/8 欠損
11	5位1	S 15 甕土	土師器 小形甕	(11.8)	8.6	3.9	普通	良好	灰白色	外面：ロクロナデ 同軸糸切り 内面：ロクロナデ	1/5
11	5位2	S 15 甕土	土師器 高台付杯	—	8.0	12.1	普通	良好	灰白色	外面：ロクロナデ 同軸糸切り後高台付 内面：ロクロナデ	杯へ高台部 5/8
11	5位3	S 15 甕土	土師器 杯	3.4	14.3	3.6	普通	良好	灰白色	外面：放射状ヘラツリ後まみれ付 内面：ナデ	ほぼ存在
11	6位1	S 16 甕土	土師器 甕	(13.7)	—	16.5	中平軀	良好	灰赤褐色	丸で縁部の傾斜。肩と胴間に横肋骨状の打ち交した帯あり。 外面：ナデ 内面：ナデ後ヘラツリ	口縁部 1/2 欠損
11	6位2	S 16 甕土	土師器 甕	(17.5)	—	17.1	中平軀	良	褐色	外面：横肋骨状 内面：ナデ	口縁一部 1/4
11	6位3	S 16 甕土	土師器 小形甕	(10.8)	—	16.0	中平軀	良好	褐色	外面：ナデ 内面：ナデ後ヘラツリ	口縁一部 1/4
11	6位4	S 16 甕土	土師器 小形甕	(14.8)	—	4.8	普通	良好	暗赤褐色	底は丸底を呈し、体部は丸みを帯びて立ち上がる。口縁部はほぼ平底に外側に横肋骨状を積み上げる。 外面：ナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	杯部 1/8 欠損
11	6位5	S 16 甕土	土師器 杯	(12.4)	—	5.0	普通	良好	灰白色	底は丸底を呈し、体部は丸みを帯びて立ち上がり口縁部は内傾する。 外面：ナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	1/3
11	6位6	S 16 甕土	土師器 杯	(11.8)	—	16.1	普通	良好	黒褐色	体部は丸みを帯びて立ち上がり口縁部は内傾する。 外面：ナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	口縁部 1/4
11	6位7	S 16 甕土	土師器 杯	(11.8)	—	16.1	普通	良好	黒褐色	体部は丸みを帯びて立ち上がり口縁部は内傾する。 外面：ナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	口縁部 1/4
11	6位8	S 16 甕土	土師器 杯	(12.2)	(8.2)	(2.5)	普通	良好	灰色	外面は平底で横肋骨状を有する。総動径2.5cm。横文土師土器の形。外面：ナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	杯部 1/3 欠損
11	6位9	S 16 甕土	土師器 杯	(12.2)	(8.2)	(2.5)	普通	良好	灰色	外面は平底で横肋骨状を有する。総動径2.5cm。横文土師土器の形。外面：ナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	杯部 1/3 欠損
11	6位10	S 16 甕土	土師器 高台付杯	—	7.6	12.7	普通	良好	灰色	高台部傾斜を有する。外面：ロクロナデ後高台部 2枚放射状 同軸糸切り後高台付 内面：ロクロナデ	杯下部 1/4 片断存在
11	6位11	S 16 甕土	土師器 甕	(41.0)	—	(7.7)	普通	良好	灰白色	外面：ロクロナデ口縁部同軸糸切り 内面：ロクロナデ 口縁部から3ないし4筋の横肋骨状による高台部2枚放射状 同軸糸切り後高台付 内面：ロクロナデ	口縁部 1/4
11	6位12	S 16 甕土	土師器 甕	—	—	(5.5)	普通	良好	灰褐色	外面：ロクロナデ後上部に横肋骨1条、その下に8ないし10程度の横肋骨状による高台部 内面：ロクロナデ	胴部
11	7位1	S 17 甕土	土師器 小形甕	—	9.6	(3.7)	普通	良好	灰赤褐色	内面は丸く、大きく反する。内面底部に放射状の横肋骨あり 外面：ヘラツリ ナデ	胴下部 1/3 片断
11	7位2	S 17 甕土	土師器 杯	(4.2)	—	(3.3)	普通	良	褐色	体部は筒倉倉。口縁部傾斜を有する 外面：ナデ 内面：ナデ後ヘラツリ	杯部 1/4
11	7位3	S 17 甕土	土師器 高台付杯	(16.6)	11.4	8.0	普通	良好	灰色	底は平底で横肋骨状を有する。総動径2.5cm。横文土師土器の形。外面：ナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	杯部 1/3 高台部 2/3
11	7位4	S 17 甕土	土師器 高台付杯	—	—	(7.2)	普通	良好	灰色	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	胴部
11	7位5	S 17 甕土	土師器 高台付杯	(13.9)	7.0	2.8	普通	良好	灰白色	底は平底で横肋骨状を有する。総動径2.5cm。横文土師土器の形。外面：ナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	杯部 1/3 高台部 2/3
11	7位6	S 17 甕土	土師器 高台付杯	5.1	17.4	3.1	普通	良好	灰色	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	杯部 1/3 高台部 2/3
11	7位7	S 17 甕土	土師器 高台付杯	2.9	(7.3)	2.7	普通	良好	灰白色	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	杯部 2/3 高台部 1/3
11	8位1	S 18 甕土	土師器 杯	(11.1)	—	(5.2)	普通	良好	明赤褐色	外面：ナデ 内面：ナデ後ヘラツリ	杯部 1/4
11	8位2	S 18 甕土	土師器 甕	(22.4)	—	(7.2)	普通	良好	褐色	外面：ナデ 内面：ナデ後ヘラツリ	口縁部 1/4
11	8位3	S 18 甕土	土師器 杯	12.4	6.1	4.2	普通	良好	灰褐色	外面：ロクロナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	ほぼ存在
11	8位4	S 18 甕土	土師器 杯	(12.4)	(7.5)	3.9	普通	良好	灰色	外面：ロクロナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	1/4
11	7-8位 1	S 17-8 甕土	土師器 高台付杯	—	—	(4.4)	普通	良好	灰色	外面：ロクロナデ後高台部 2枚放射状 同軸糸切り 内面：ロクロナデ	杯部
11	7-8位 2	S 17-8 甕土	土師器 鉢	(16.0)	—	9.3	普通	良好	灰色	丸で縁部の傾斜。肩と胴間に横肋骨状の打ち交した帯あり。 外面：ナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	口縁部 1/3 欠損
11	9位1	S 19 甕土	土師器 甕	(23.2)	—	(12.1)	普通	良好	暗赤褐色	外面：ナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	口縁部 1/4
11	9位2	S 19 甕土	土師器 甕	—	(8.4)	(2.3)	普通	良好	暗赤褐色	外面：ナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	杯部 1/4
11	9位3	S 19 甕土	土師器 杯	(12.0)	—	(4.6)	普通	良	明赤褐色	外面：ナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	口縁部 1/4
12	11位1	S 11 甕土	土師器 甕	23.5	[25.1]	普通	良好	褐色	外面：ナデ 内面：ナデ後放射状ヘラツリガキ	口縁部 1/4 欠損	



川土土器観察表

図	番号	出土位置	種類・器種	法 量 ( ): 規定   : 遺存				胎土	肌成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
				長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重さ (g)					
12	11 住 2	S 1 11 炊爨	土師製 鉢	23.0	—	12(4)	普通	良好	褐色	外面:ヨコナデ ヘラナズリ 内面:ヨコナデ ヘラナズリ	口縁一部 2/3	
12	11 住 3	S 1 11 甕土	土師製 環	12.0	—	3.8	普通	良好	褐色	丸底の器。口縁部はほぼ水平にのびる。胎土、口縁部は内面褐色。 外面:ヨコナデヘラナズリ 内面:ヨコナデ	ほぼ完全	
12	11 住 4	S 1 11 炊爨	土師製 口付鉢	—	—	10.6	普通	良好	にぶい褐色	口縁部以上3.3cmの頸部の片口。口内縁部完了1.5cm、高底部1.5cm。 外面:土師製一部切取後加工あり ナデ・ヘラミガキ 内面:ヨコナデ	口縁一部片	
12	11 住 5	S 1 11 甕土	土師製 鉢	(16.4)	—	14.6	普通	良好	灰白色	ヨコナデ 内面:ヨコナデ	口縁一部片	
12	11 住 6	S 1 11 甕土	土師製 高脚甕	—	—	(7.1)	普通	良好	灰白色	外面:ヨコナデ 加減ヘラナズリ 内面:ヨコナデ	胴中片	
12	12 住 1	S 1 12 甕土	土師製 鉢	(17.8)	—	(8.3)	普通	良好	明赤褐色	外面:ヨコナデ・ナデ ヘラナズリ 内面:ヨコナデ	口縁一部片 1/4	
12	12 住 2	S 1 12 甕土	土師製 鉢	—	(6.4)	(2.3)	普通	良好	黄褐色	外面:ハケメ・ヘラナズリ 内面:ハケメ	底面1/3	
12	12 住 3	S 1 12 甕土	土師製 高脚甕	—	—	6.7 (1.6)	普通	良好	灰白色	外面:ヨコナデ ロクロナデ 四角ヘラナデ後加工あり 内面:ヨコナデ	体1〜高台部 1/2	
12	12 住 4	S 1 12 甕土	土師製 高脚甕	(11.9)	7.0	5.3	普通	良好	明赤褐色	外面:ヨコナデ 四角ヘラナデ ロクロナデ 内面:ヘラミガキ 黒色処理	ほぼ1/3 高台部欠存	
12	12 住 5	S 1 12 甕土	土師製 環	(13.8)	—	5.6	普通	良好	にぶい褐色	口縁部以上加工された頸部の断面が特徴。 外面:ヨコナデ ヘラナズリ 内面:ヨコナデ ナデ後加工あり	1/2	
12	12 住 6	S 1 12 甕土	土師製 環	(13.4)	—	5.7	普通	良好	明赤褐色	外面:ヨコナデ・ナデ ヘラナズリ 内面:ヨコナデ	外周1/5 底面1/2	
12	土 1	S K 1 甕土	土師製 甕	24.2	7.3	27.4	普通	良好	褐色	胴部の幅から口縁部までの断面の厚み。口径0.8cm。 外面:ナデ ナデ(ヘラナズリ) 内面:ナデ ナデ(ヘラナズリ)	口縁一部片 2/3 底面完全	
12	土 2	S K 1 甕土	土師製 甕	13.9	—	(7.7)	普通	良好	にぶい褐色	外面に一部赤褐色。全周塗されていたか? 外面:ナデ ナデ(ヘラナズリ) 内面:ヘラナズリ	口縁部行脚 上部1/3	
12	土 3	S K 4 甕土	衛生土器 小甕	—	—	(3.8)	普通	良好	赤色	外面に一部赤褐色。全周塗されていたか? 外面:ナデ ナデ(ヘラナズリ) 内面:ヘラナズリ	胴面片	
12	土 4	S K 5 甕土	土師製 鉢	(11.2)	—	(3.2)	普通	良好	土褐色	外面:ヘラナズリ ナデ ヘラナズリ	口縁一部片	
12	外 1	C 6 区 瓦葺	須賀野 瓦葺	—	10.2	(12.3)	普通	良好	黄褐色	外面:ヨコナデ 四角ヘラナデ 四角ヘラナデ後加工あり 自然釉付 内面:ヨコナデ	高台1/4 高台部完全	
12	外 2	B 4 区 瓦葺	須賀野 鉢	—	(16.5)	(11.5)	普通	良好	オリーブ 黒色	口縁部、胴部の凹み部等が平らなものと異なる。 外面:ヨコナデ ヘラナズリ 内面:ヨコナデ	胴上部片 断面片	
12	外 3	I 区 瓦土	土師製 鉢	(18.0)	—	(5.4)	普通	良好	褐色	底面に竹筒のものが付くと思われる。 外面:ヘラナズリ 内面:口縁部取り ナデ	口縁一部片 1/4	
12	外 4	C 3 区 瓦葺	土師製 鉢	(12.6)	(3.0)	4.1	普通	良好	にぶい褐色	外面:ヨコナデ ヘラナズリ 内面:ナデ ヘラナズリ (9) 黒色	1/4	
12	外 5	I 区北側 サブトレ	土師製 口付鉢	—	—	3.2	普通	良好	灰白色	底面に円筒形状の跡を有する。 外面:ナデ後加工あり 内面:ヘラミガキ 黒色処理	口縁一部片	
12	外 7	B 3 区 瓦葺	須賀野 環	(13.9)	—	(2.0)	普通	良好	灰色	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	口縁部片	
12	外 8	I 区 西側サブトレ	須賀野 高台付鉢	—	(6.4)	(1.5)	普通	良好	灰白色	外面:ヨコナデ ロクロナデ後加工あり 内面:ヨコナデ	高台部片	

土製品観察表

図	番号	出土位置	種類	法 量 ( ): 規定   : 遺存				胎土	肌成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
				長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重さ (g)					
9	1 住 20	S 1 1 鉢形	土師	7.8	3.1	3.0	69.1	普通	良好	黒褐色	口径0.5cm。中部が広がる鐘形。ナデ器で底部を平らに磨く。	完全
9	1 住 21	S 1 1 鉢形	土師	4.8	1.6	1.5	11.6	やや粗	良好	褐色	口径0.3cm。ナデ器で底部は磨いていない。	完全
9	1 住 22	S 1 1 床塗	須賀野 鉢	(3.0)	(2.0)	0.8	7.0	粗面	良好	灰白色	須賀野産の須賀野。表面ナデ、側面・胴面・下腹部ヘラナズリ	破片
12	外 6	I 区東側 瓦葺	土師製 鉢	(2.9)	0.9	0.9	8.0	普通	良好	浅黄褐色	下腹部2.4cmで断面斜行面を示す。土面に直径0.2cmの磨き出しを中心とする凹みの痕跡あり、もしくは3凹みの凹みを中心1点を有する。	ほぼ完全

石製品観察表

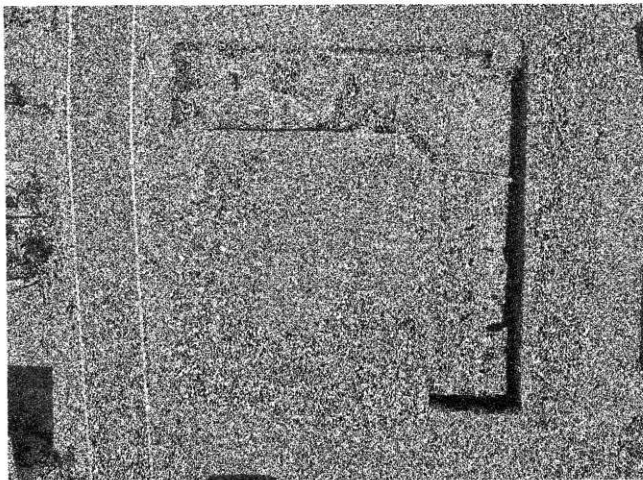
図	番号	出土位置	種類	法 量 ( ): 規定   : 遺存				材質	器形、成・整形等の特徴	遺存状況
				長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重さ (g)			
11	沖 住 4	S 1 9 灰田	灰石	6.0	2.8	1.8	49.0	洗脱石	両面台形の断面を呈し、上下両端はやや丸みをおぼる。上面と下面がほぼ等しい。表面は滑らかで、片方の側面には磨き跡があり、裏面に付いたものと異なる。	完全
12	土 5	S K 7 甕土	石製陶器	2.2	1.5	0.7	2.9	滑石?	断面から穿孔を行なうのが、片側は位置がズレていたため位置を再度穿孔している。	完全

## 発掘調査報告書抄録

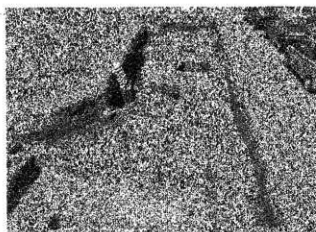
ふりがな	やわた・ろくまいいせき2
書名	八幡・六枚遺跡2
副書名	住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第274集
編集者	高林 真人
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1
発行年月日	2009年12月24日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
八幡・六枚	高崎市八幡町 字六枚910番地1 ほか	102020	466	36° 20' 24"	138° 56' 36"	2010.04.01 ～ 2010.05.19	155㎡	宅地造成

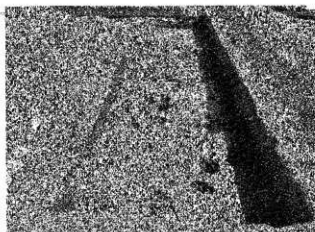
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八幡・六枚	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	竪穴住居跡 13軒 土坑 14基 小穴 20個	弥生土器 土師器 須恵器 灰輪陶器 石器 石製品 鉄製品	・5世紀後半から9世紀代の集落跡を検出した。 ・「片作郎」刻書土器が出土した。



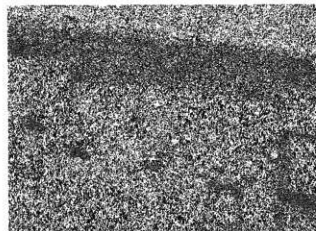
調査区全景 (南真上から)



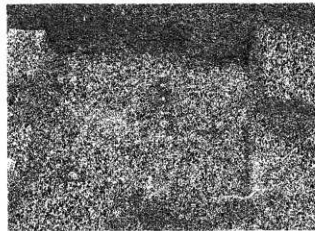
I区全景 (東から)



II区全景 (西から)



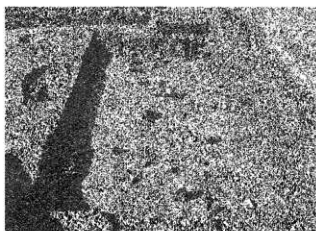
SI-1 遺物出土状況 (南から)



SI-2 遺物出土状況 (北から)



SI-4 遺物出土状況 (東から)



SI-6 遺物出土状況 (南から)

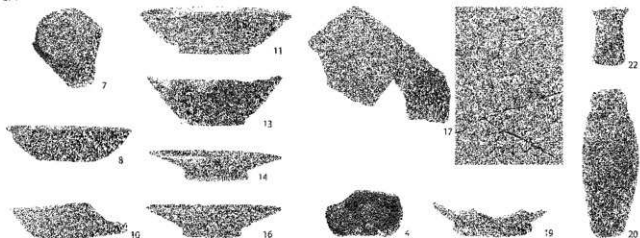


SI-12 遺物出土状況 UP (南東から)

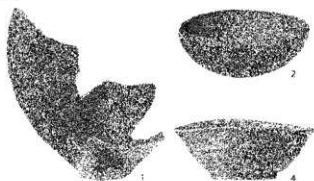


調査区透景 (北東上空から)

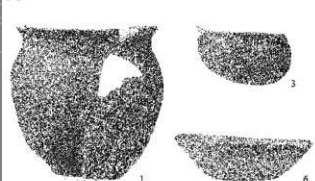
SI-1



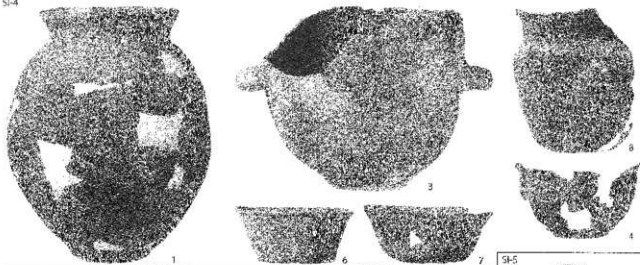
SI-2



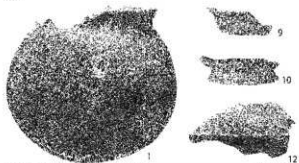
SI-3



SI-4



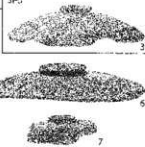
SI-6



SI-7



SI-5



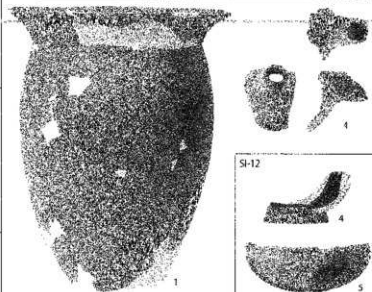
SI-8



SI-7-8



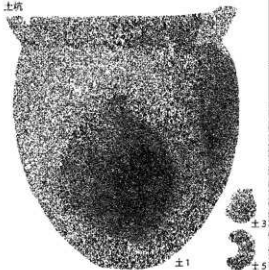
SI-11



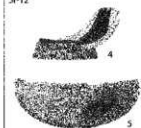
SI-9



土坑



SI-12



遺構外



高崎市文化財調査報告書第274集

## 八幡・六枚遺跡 2

—住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

---

2010年12月24日 印刷

2010年12月24日 発行

編集・発行 高崎市教育委員会

印刷 上毎印刷工業株式会社

---